

第1回 小牧市まちづくり推進計画審議会 議事録

日 時	令和5年7月5日(水) 18時00分～19時40分
場 所	小牧市役所本庁舎6階 601会議室
出席者	<p>【委員】(名簿順)</p> <p>浦田 真由 名古屋大学大学院情報学研究科准教授 大塚 俊幸 中部大学人文学部歴史地理学科教授 柴田 謙治 金城学院大学人間科学部コミュニティ福祉学科教授 清水 真 中部大学経営情報学部教授 長岩 嘉文 日本福祉大学中央福祉専門学校校長 長江 美津子 名古屋経済大学人間生活科学部教育保育学科特任教授 倉知 日出美 小牧市女性の会 副会長 近藤 鎮彦 小牧市区長会 連合会長 関 哲雄 (特非)こまき市民活動ネットワーク 事務局長 發知 和夫 連合愛知尾張中地域協議会 代表 山本 華代 小牧市小中学校PTA連絡協議会理事北里中学校PTA家庭教育委員 吉田 友仁 (社福)小牧市社会福祉協議会 会長 伊藤 咲哉 一般公募者 岩野 さゆり 一般公募者 日榮 順子 一般公募者 舟橋 精一 一般公募者 晦日 優菜 一般公募者 吉田 富美子 一般公募者</p> <p>【諮問者】</p> <p>山下 史守朗</p> <p>【事務局】</p> <p>笹原 浩史 市長公室長 駒瀬 勝利 市長公室次長 舟橋 知生 総務部次長 三品 克二 地域活性化営業部次長 小川 正夫 市民生活部次長 落合 健一 健康生きがい支え合い推進部次長 小川 真治 福祉部次長 伊藤 加代子 こども未来部次長 竹内 隆正 建設部次長 堀場 武 都市政策部次長 笹尾 拓也 上下水道部次長 竹田 孝一 市民病院事務局次長 林 浩之 会計管理者 小口 高広 副消防長 矢本 博士 教育委員会事務局次長 舟橋 朋昭 市長公室 秘書政策課 課長 梅村 昌行 市長公室 秘書政策課 市政戦略係長</p>

欠席者	鈴木 義久 小牧商工会議所 副会頭 舟橋 拓馬 (一社)小牧青年会議所 副理事長兼室長
傍聴者	3名
配付資料	資料1 小牧市まちづくり推進計画審議会条例 資料2 小牧市まちづくり推進計画審議会委員名簿 資料3 小牧市まちづくり推進計画 第1次基本計画改定に係る基本方針 資料4 小牧市まちづくり推進計画 第2次基本計画「序章」 資料5 小牧市まちづくり推進計画 第2次基本計画「第1章 計画の概要(案)」 資料6 小牧市まちづくり推進計画審議会日程(案) 別冊 小牧市まちづくり推進計画改定に係る基礎調査報告書 別冊 まちづくり(市民アンケート)調査報告書

内容

<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民憲章の唱和 <p>2 会議の公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市長公室長より本審議会は公開とする旨説明があった。 <p>3 審議会委員任命</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市長より委員を代表して伊藤委員へ任命書が手渡された。 <p>4 市長あいさつ</p> <p>【山下市長】</p> <p>皆様、こんにちは。本日は、まちづくり推進計画の審議会ということで、ただいま委員の任命をさせていただきます。</p> <p>委員をお引き受けいただきましたこと、まずは大変ありがたく感謝申し上げますところでございます。そして本日も、大変ご多忙の中、こうしてご参集いただきましてありがとうございます。</p> <p>これからこのまちづくり推進計画の策定ということで、皆様方には大切重要な役割を担っていただくということで、よろしく願い申し上げたいと思います。</p> <p>もうすでにご承知いただいていると思いますが、このまちづくり推進計画は、小牧市の行政を進めていく上で、最も基本となる最上位にする計画であります。</p> <p>平成27年3月に小牧市自治基本条例を制定いたしまして、この条例に基づいて策定した初めての計画がまちづくり推進計画第一次基本計画ということです。</p> <p>この計画は、基本的に8年間の計画としているのですが、4年ごとのローリングということで、4年ごとに見直しをしていくという計画にしております。</p> <p>これについては、いろいろ議論がございまして、これまでこういった計画のあり方について、専門家の皆様と一っしょに議論を重ね、かなり深掘りをしてきました。そうした中で特に、地方分権、地方自治の中で、まさに自治体それぞれが主体性を持って、独自の工夫を持ってまちづくりを進めてい</p>
--

くという、そうした時代になってきていましたから、それに即した計画のあり方が非常に重要だということで、どういうふうに策定した方がいいのか議論をして参りました。

まずは、やはり市民が主体ですから、市民の皆様方の意見をしっかりと反映していく。そのためにまず一番基本なのは選挙だろうと、そうした中で示された民意をいかに市政に反映していき落とし込んでいくか、大きな意味でのPDCAのサイクル、計画を作り、実行して、ご評価をいただく。このPDCAをですね、大きな意味でまわしていくということを考えながら、そしてそれぞれの計画において、しっかりとまた小さなPDCAのサイクルまわしていくというようなことを図っているところでございます。

そうした中でいろいろ進めてまいりまして、私も4回選挙やりまして、4回市民の皆様方に、マニフェストという形でお約束をした、この様々な政策を行政に反映していこうということで、行政計画に落とし込む。それを職員の皆さんとともに協力して、実行していくということを4年ごとに繰り返してきたわけでありまして。

この策定にあたってはいろいろな基礎調査をやっております。その一つとして、市民の意向調査アンケートをやっておりまして、この結果も参考にさせていただいて、ご審議いただくわけですが、少しだけ私から申し上げますと、市長としては非常に良い結果がありましたので、ご紹介したいと思っております。5月1日号の広報裏面にもグラフを記載しましたが、一番ざっくりとした質問として、小牧が住みやすいまちだと思いますか、また小牧に住み続けたいと思いますかという質問をさせていただいております。そのアンケート結果ですが、住みやすいまちだとお答えになった市民が、平成24年は82.9%で、平成30年度が85.5%に上がり、今回は90%まで上がりまして、市長としては大変喜ばしいと思っております。そして住み続けたいかどうかという質問についても、平成24年が79%、平成30年が84.5%。今回は88.2%ということで、これもかなり上がっており、大変喜ばしいことです。これは、当然ながら私の1人の努力ということではなくて、職員皆さんとともに努力をし、また市民の皆様方の様々な活動が、全体として、こうした住みやすい、暮らし続けたいまちづくりに繋がってきているというので、大変感謝申し上げますところでございます。

この計画は、行政の職員だけが行う計画ではなくて、まち全体の方向性を示すもので、市民の皆様とともに作っていくという計画でもございまして、市民の皆様にも理解いただける読みやすい計画にしていきたいと思っておりますし、皆さんとともにそうした方向性を描きながら、みんなで一緒に進めていくという、そういった計画にしたいと願っております。

この計画の特徴的なところとしては、とにかくみんなで議論すると、あれもこれもやるべきだということで、総花的な計画になってしまうのですよね。ところが、行政の人的資源も金銭的な資源も限られておりますので、全部を同じよう最大限の力を注いでいけるということではないわけでありまして。やはりそこは取捨選択をして、優先順位をつけていかなければならないということを意識しつつ、一つは市長として、皆様にお約束をしたことを優先的に取り組んでいくという市政戦略編と、やはり全体的に必要なという分野別計画を2層構造にして、分ける計画にしたというのが一つの工夫というか、特徴でございます。

もう一つが、できるだけ客観的な指標を置いて、進捗をチェックしていこうということを思っております。どれだけやったかというよりは、どのような成果が得られたかというような視点で努力しております。

市政戦略編は必達目標を置いているのですけれども、分野別計画については、先ほど申し上げたように経営資源に限りがありますので、数値目標をすべてに置くのではなく、望ましい方向に向かっていくのかについて矢印で示すことによって、判断できるような指標の置き方も工夫してやって参りました。

このように、後程、説明もあるかも知れませんが、私から特徴について少しお話をさせていただきました。

なお、このような工夫をしていることについては、実は大変手前みそなのですけれども、昨年の全国マニフェスト大賞というところでご評価をいただき、表彰もいただいたというようなこともございました。全国的に見てもかなり工夫した、一歩進んだ策定の仕方ではないかということは自負をいたしております。

ただ、もちろん100点満点ではなくて、まだまだ工夫の余地がありますし、特に内容については、皆さんにご意見をいただきながら、しっかりと反映をしてより良いものにしていきたいというふうに思っておりますので、ぜひ、忌憚のないご意見をいただき、皆さんと共有ができる、そんなよりよい計画にしていきたいというふうに思っておりますので、ぜひよろしくお願い申し上げます。

なお、小牧市においても、全国と同様に人口減少局面に突入しておりまして、平成27年には15万3000人あまりでありました本市の人口も、令和5年4月には15万人をわずかに上回る程度というところまで低下してございます。

外国人の市民の方々は1万人を超えたところでございますので、15万市民のうち1万人が外国人市民というような、本市の特徴もございます。そうした状況の中で、様々な少子化対策、或いは子育て支援、或いは多文化共生等々の課題も重要だと思っておりますし、その他にも防災安全をはじめ、教育だとか、あらゆる分野に対してご意見をいただければと思っております。

次期計画は、第2次基本計画ということで策定して参りたいところでございますが、基本的には現計画の理念を継承しながら、より効果的・効率的な市政運営にする計画として参りたいと思っております。

最後に、この計画は、市民憲章に掲げる理想のまちを実現するための計画ということで、市長がヴィジョンを示し、それぞれの分野についても進めるための分野別計画を置くというような立て付けになっておりますので、よろしくお願いいたします。

具体的な内容については、この審議会にお示しをしてご審議いただきたいと思っております。

ぜひ、専門的なお立場や、市民の代表としてのお立場など、それぞれでございますが、忌憚のないご意見を賜りますように、お願いを重ねて申し上げて、第1回審議会にあたっての挨拶とさせていただきます。

大変お世話になりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

5 委員自己紹介

- ・各委員より自己紹介が行われた。

6 会長・会長職務代理選出

- ・関委員より柴田委員が会長に推薦され、委員全員の同意を得て柴田委員が会長に選出された。

【柴田会長】

会長に選出された柴田と申します。よろしくお願い申し上げます。

本審議会では市の最上位計画にあたる、小牧市まちづくり推進計画を改定し、新たに第二次基本計画を策定することになります。一次計画はこのような冊子のものですね。

このような計画は、かつては地方自治法に根拠があって総合計画というルーツがあったかなと思います。そしてその時には、小牧市をどう豊かにしていくとか、割と正解が求められていたのかもしれない。ただし今はちょっと時代が変わって、いろいろな視点があり、それによって正解も多少変わってくるということですし、特にこのような幅広い総合計画ですと、一つの正解よりは、多様な意見が求められるかもしれません。

したがって、若い委員の方も含めて、間違いはないというふうに私も考えて、いろいろな意見を否定したりすることはいたしませんので、多様な意見をいただけたらと思います。それらの取捨選択と

いうところはやはり市長さんをはじめとする市の方にお任せできるのではないかと思います。

皆様ご多忙のこととは思いますが、次期計画の策定に向けてご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

- ・会長より大塚委員が会長職務代理に指名され、委員全員の同意を得て大塚委員が会長職務代理に選出された。

7. 諮問

- ・市長より柴田会長に諮問書が交付された。

8. 議事

(1) これまでの策定経緯

【柴田会長】

それではここからは私が議事を進行させていただきます。引き続き次第に基づいて進めます。

議題 8 (1) これまでの策定経緯について事務局より説明をお願いします。

【事務局 (舟橋課長)】

秘書政策課長の舟橋です。それでは私の方からこれまでの策定経緯についてご説明をさせていただきます。

本日は1回目の審議会ということでありますので、皆様に審議いただく小牧市まちづくり推進計画について、次期計画を策定するにあたって、基本方針を定めましたので、まずはこの基本方針からご説明させていただきます。

それでは資料 3、小牧市まちづくり推進計画第一次基本計画改定に係る基本方針をご覧ください。

(資料 3 及び別冊の説明)

以上、次第 8 の 1、これまでの策定経緯についての説明とさせていただきます。

【柴田会長】

ありがとうございました。事務局からの説明が終わりました。委員の皆様から質問はありませんか。なお、ご発言の際は挙手していただき、私がお名前をお呼びしますので、その後ご発言ください。

【舟橋 (精) 委員】

基礎調査報告書の 40 ページのところ、各地区の人口の推移について説明いただきましたが、篠岡地区が減っているというのは、桃花台ニュータウンの住人の転出が進行しているという理解でよろしいでしょうか。

【事務局 (舟橋課長)】

恐れ入りますが、1枚めくっていただきまして 42 ページをご覧くださいと思うのですが、こちらの図表 2-3 の 22 篠岡地区の人口の推移という表がございます。このうち、11 の桃ヶ丘から 15 の城山がニュータウンで人口の減少が見て取れると思います。また、その他地区につきましても、全体的に減少が進んでいるというような状況となっています。

【舟橋 (精) 委員】

そうすると、その地区にある小学校、中学校の生徒数の推移についてどんな傾向があるか、もし情報ありましたらお願いいたします。

【柴田会長】

どうでしょうか。今日答えいただいても結構ですし、このあとの教育子育ての分野を議論する回がありますので、その時にデータも含めてお答えいただくということも可能ですが。

【事務局（舟橋課長）】

今手元に数字を持ち合わせておりませんので、会長のおっしゃるとおり、その分野のところでデータを示してご説明させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【柴田会長】

他にはいかがですか。特に今日は、無理にたくさん質問してくださいというよりは、一番のメインは、委嘱等ございましたので、特にご意見とかご質問がないようでしたら無理には申し上げません。次の議題に移ってよろしいでしょうか。

それでは、次第8の(2)次期計画の骨子案について事務局より説明をお願いします。

【事務局（舟橋課長）】

(2)次期計画の骨子案についてご説明させていただきます。資料4の1ページをご覧ください。(資料4及び資料5の説明)
事務局からの説明は以上です。

【柴田会長】

ありがとうございます。事務局からの説明が終わりました。委員の皆様からご質問はいかがでしょう。

今日は全体的な骨格のお話ということで、委員の皆様が自分はこのところに関心があるというのについては、今日というよりはむしろ、次回以降の分野別計画編あたりで皆様の鋭いご意見といますか、貴重なご意見を伺えたらと思います。今日の段階では、ぜひこれは今日聞いておきたいということがあればご質問くださいというくらいでよいのではないかと思います。いかがでしょうか。

【大塚委員】

資料の4の10ページ。文章の一番最後、つまりのところ、本市の運輸業・郵便業の従業者の構成比は、愛知県と比較して2.3倍も高いことから、産業構造上の大きな特徴、括弧強みの一つとして考えられますと、この運輸業・郵便業の従事者が多いということ、本市の強みとして位置づけるってことは、強みならば強みを伸ばしていこうと、今後も運輸業・郵便業を伸ばしていく方向にいくんだという根拠になるのかなと思っていますが、果たしてそれでいいのかいうところがちょっと気になっていて、今後の産業政策として、産業誘致を考えていくことにも影響しそうなので、強みというよりは、特徴があるというところで留めておくのか、或よく考えないといけないというのがまず1点目です。

【柴田会長】

地理学の専門家としての貴重なご意見をいただいたという趣旨かと思いますが、これは事務局の方からお答えいただけますか。

【事務局（舟橋課長）】

基礎調査報告書には、書いていない状況ですので、一度検討させていただきます。

【大塚委員】

よろしくお願いします。次の2点目ですが、同じく16ページのまちづくりの主要課題について。(6)の傷ついた地域のコミュニティ活動の再活性化ということで、確かにコロナ禍でいろいろな行事がストップしていて、これを何とか再開させていこうというようなことだと思うのですが、そういうところ限定しているという理解でよろしいですか。

実はコロナ禍以前から、コミュニティの希薄化、自治会加入率の低下という問題は別途あると思うんですが、それではなくてコロナ禍で停滞していたものを何とか再開させましょうという、そういうことを意識した課題というとらえ方でいいかという確認です。

【柴田会長】

事務局お願いします。

【事務局（舟橋課長）】

地域コミュニティの衰退の関係につきましては、もともと市の課題としてもありますので、自治体経営編の基本施策の中で記述する考えであります。

特にコロナ禍で、地域の活動とかが中止になったり延期したりとかで、再開ができなかったというところに注力していこうという形で書かせていただいたところです。

【柴田会長】

私もこれを見ながら、サロンとかが止まってしまって、今後の再開とかそういったことを感じながら聞かせていただきました。

ただいずれにせよ、コロナだけではなく、地域の繋がり希薄化、これにコロナがあったという2種類の要因の書き方がいいのじゃないかということですね。これは専門家の貴重なご意見ですね。

【大塚委員】

それでは3点目お願いいたします。資料の5、3ページ4ページ、計画推進における横断的な視点ということで、(1)から(6)まで6点挙げていただいているのですが、これと、先ほど第一次基本計画改定に係る基本方針の2番で改定にあたっての視点を5つ挙げてもらっています。この2から5の改定の視点については横断的な視点の中に入っているのですが、1番目のウィズコロナ・アフターコロナを見据えた施策の展開というのは、この横断的な視点の中には入っていません。どのような判断をされたのでしょうか。

【柴田会長】

事務局いかがでしょうか。

【事務局（舟橋課長）】

基本方針の改定にあたっての視点の一つ目としてウィズコロナ・アフターコロナを見据えた施策の展開ということで視点を設けさせていただきました。

基本的な流れとしては先生のおっしゃるような形で、この視点をほぼ踏まえたような形で横断的な視点ということで項目を持ってきている仕立てにはなっております。

しかしながら、この基本方針を策定した令和4年7月20日現在でのコロナの状況と今現在のコロナの状況等を勘案しまして、やはり多少なりとも状況が変わってきている状況でしたので、あえてウィズコロナ、アフターコロナというような記述はしない形で整理をさせていただいたところです。

【大塚会長】

今の説明、よくわかりました。ありがとうございます。

【柴田会長】

ありがとうございました。それでは他にいかがでしょうか。

それではご意見も出尽くしたということで、次の議題に移らせていただいてもよろしいでしょうか。

また今日お聞きそびれたことについては、次回以降の分野別のところでより丁寧な説明があつて、質問する機会もありますので、ご安心ください。

それでは次第第8の3、今後の進め方について事務局より説明をお願いします。

【事務局（舟橋課長）】

議題8の3、今後の進め方についてご説明させていただきます。資料6、審議会日程案をご覧ください。

(資料6の説明)

事務局からの説明は以上です。

【柴田会長】

ありがとうございました。半年間皆様にご審議におつき合いくださればと思います。ご質問等いかがでしょうか。

これはスケジュールということで特に嫌だとか駄目だとかそういうのは特にはないですね。

それでは、ご意見も出尽くしたようですので、これで本日の議題はすべて終了しました。

皆様、本日はありがとうございました。ご協力に感謝いたします。それではマイクを事務局にお戻しいたします。

【事務局（舟橋課長）】

委員の皆様、本日はお忙しい中、第1回小牧市まちづくり推進計画審議会にご出席いただき、誠にありがとうございました。

最後に事務局より事務連絡をさせていただきます。交通安全についてのお願いです。

交通事故を決して他人事と思わず、日頃から気をつけていただきますようお願いいたします。

車を運転するときは、歩行者の存在を常に意識し、横断しようとしている歩行者がいる時は停止して、横断優先でお願いします。

反対に、歩行者となった時は周囲を見渡し、安全であることを確認してから横断してください。なお、道路を横断するときは必ず横断歩道を渡っていただきますようお願いいたします。

以上をもちまして第1回小牧市まちづくり推進計画審議会を閉会させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

9 閉会